

賞味期限データを起点とした食品物流品質証明DX推進事業

事業者名:株式会社イバノ(浦添市/食料品卸売業)

総事業費:7,876,800円(税込み)

1. 事業内容

2. 事業効果イメージ

(1)概要

①事業目的

入庫時の賞味期限・ロット情報は紙・手入力に依存しており、入荷作業1回135分、業務の80%が属人化という課題がある。入庫・棚卸・問い合わせ対応を「あとで探す仕事」から「その場でわかる仕事」へ変える。賞味期限・ロットを現場で確実に取得し、期限逆転、在庫差異、誤出荷、廃棄ロスを早期に見つけられる食品物流へ転換する。

②事業概要

ハンディ検品とAI-OCRを導入し、入庫・出庫・棚卸のたびに商品、数量、期限、ロット、作業者、検品結果を記録。基幹システムと連携し、現場の確認結果を品質証跡として残す。

③連携ITベンダー

株式会社創和ビジネス・マシンズ

(2)見込まれる効果

- ・期限取得100%を起点に、在庫精度を80%以上へ高め、入荷作業は135分から90分へ短縮。誤出荷・廃棄ロスを50%削減し、取引先へ品質を説明できる物流へ変える。
- ・現場の気づきがデータに残り、期限逆転や3カ月未満品を早期に検知。仕入先評価、取引先別トレース、営業提案まで活用できる。

(3)本事業終了後のビジネス展開や今後のDXに向けた取組

補助後3年で本社物流の標準運用として定着させ、月次DX推進会議で期限取得率、在庫差異、誤出荷、廃棄ロスを確認する。

港川工場・八重山支店・宮古島支店へ横展開し、仕入先評価、在庫最適化、営業提案に活用する。

沖縄の的外食・観光を支える食品物流を、現場検品から取引先説明まで一気通貫で可視化
価格・品揃えで戦う卸売から品質をデータで証明できる新たな卸売へ



● 見込まれる効果



3. 将来像

目指す姿:期限・ロット情報を、取引先へ説明できる品質証跡へ。

本事業で蓄積した賞味期限・ロット・検品結果を本社物流に定着させ、期限逆転・誤出荷・廃棄ロスの兆候を早期に把握し、仕入先評価、在庫最適化、取引先別トレース、営業提案へ活用を広げ、港川工場・八重山支店・宮古島支店にも横展開。最終的には、沖縄の的外食・観光産業へ出荷履歴と品質を説明できる食品卸として、安定供給力と信頼性を高める。